

令和5年度 静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 遠州流域治水協議会

今年度の進捗状況や課題の報告

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

浜松市

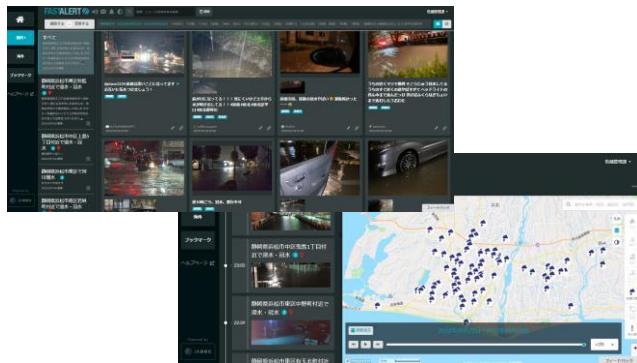
- 迅速な災害対応に活かすため、SNS上に投稿された被害情報を収集して集約する「**SNS情報集約システム**」を導入しました。
- 自主防災体制の強化を目的に、自主防災隊の風水害時の行動を記した**アクションカード**の作成や、**一斉連絡の体制**を構築しました。
- 流域治水を推進するため、**校庭貯留施設の整備**を進めています。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	SNS情報集約システムの導入 等	避難情報発令の基礎資料の一つとして活用	
	■ 避難行動を促す取り組み	「わたしの減災プロジェクト」による自らの避難行動の把握	「わたしの減災プロジェクト」の取り組みを広げ、自主的な避難のタイミングを周知していく	自主防災隊長から地域住民へ浸透させる必要がある。（→出前講座のプログラムの一つとして啓発）
	■ 自主防災体制の強化	風水害時の自主防災隊の活動を記したアクションカードを配布 等	災害時の自主防災隊への一斉連絡の活用	自主防災隊へのメール登録の呼びかけ。（→自主防災隊の総会などでの呼びかけ）
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■ 流域の市町と河川管理者が一体となった総合的な治水対策の推進	九領川河川整備、校庭貯留施設の整備	浜松市総合雨水対策計画に基づく九領川等の改修及び貯留施設の整備を推進	
	■ 河川における機能の確保	市管理河川の河床掘削の実施	市管理河川の巡視、点検により状況を把握し、流水の阻害となっている土砂、水草等の除去を実施	

●主な取組内容(R5年度)

■SNS情報集約システムの導入

災害時に市民からの電話や関係機関からのポイント的な情報だけでなく、広域のリアルタイムの情報を入手して災害対応に活かすため、SNS上に投稿された被害情報を収集して集約する「SNS情報集約システム」を導入した。



SNS情報集約システム

■自主防災隊の風水害時の行動を記したアクションカードを作成、一斉連絡の体制構築

風水害時における自主防災隊の初期対応をまとめたアクションカードを作成、配布。また、災害時における自主防災隊への情報提供や情報収集を実施するため、メールにより一斉連絡を行う体制を構築した。



風水害時の自主防災隊の活動を記したアクションカード

■流域治水として貯留機能(校庭貯留)の確保

浜松市内の学校24校について校庭貯留の整備を進めており、令和5年度では整備工事を実施し、4校の校庭貯留施設を整備。



校庭貯留施設の整備

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

浜松市

- (準)高塚川のポンプ施設工事に着手した。また、馬込川支川に設置している湛水防除用排水機場の操作遠隔化に向けた取組を推進していく。
- 水田貯留の候補地選定を実施し、浜名区宮口で合意形成を図った。令和6年度以降は効果が見込める地域で順次取組導入と合意形成を図っていく。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■河川整備	・(二)九領川、(準)五反田川、(準)東芳川の改修	・(二)九領川、(準)五反田川、(準)東芳川の改修(継続)	なし
	■排水施設の整備・強化	・(準)高塚川のポンプ施設工事 ・排水機場の質的強化(操作遠隔化)の概略設計	・(準)高塚川のポンプ施設工事(継続) ・排水機場の質的強化(操作遠隔化)の設計・工事	なし
	■水田貯留の推進	・水田貯留の可能性検証 ・耕作者等の合意形成(浜名区宮口)	・水田貯留の導入(浜名区宮口) ・効果が見込める地域における耕作者等の合意形成	①耕作者の負担が極力生じない取組の検討 ②関係組織への周知と導入効果の検証
	■雨水貯留浸透施設の整備	・校庭貯留施設の整備(4校)	・校庭・公園貯留施設の整備(5校、3公園)	なし
被害対象を減少させるための対策	■水災害リスク情報空白域の解消	・洪水浸水想定区域図(市管理の二級河川5河川作成・公表)	・運用	関係部局等と連携のとれた具体施策の推進
	■立地適正化計画における防災指針の記載	・災害リスク評価分析の実施	・計画(案)の策定	なし
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■防災意識向上	・出前講座の実施(190回)	・継続	なし
	■防災拠点の整備・強化	・浸水が頻発する地域において緊急時のポンプ排水の体制確保	・継続	増加する浸水に対する配備体制、ポンプの確保(→国交省のポンプ車借用、ポンプ購入)
	■防災情報の提供	・通行規制情報のリアルタイム提供	・通行規制情報のリアルタイム提供(継続) ・ワンコインセンサー実証実験	なし

●主な取組内容(R5年度)

■河川改修(準用河川東芳川、護岸工)



着手前

完成

■高塚川のポンプ施設工事に着手(排水機場躯体工(鋼管杭打設))



完成イメージ

■緊急時のポンプ排水(安間川流域(中央区老間町))



令和5年6月2日
老間町浸水状況

台風接近時(R5. 8. 15)
可搬式ポンプ配備

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

磐田市

- 迅速な災害対応に活かすため、投稿された**SNS情報を検知**し、様々な**被害状況等を迅速に集約できるシステムを導入**しました。
- 令和4年台風第15号を踏まえた**災害シンポジウムを開催**し、地域住民と共助の重要性を再認識しました。
- 道路冠水、内水氾濫の早期把握により、的確な避難情報の発令につなげるため、**浸水センサを市内10か所に設置**しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 確実な避難指示の発令に向けた取組	避難判断マニュアルの確認、 SNS集約システム の導入	避難情報の判断・伝達マニュアルの随時見直し 等	
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	内水浸水想定区域図作成検討	想定最大規模降雨の内水浸水想定区域図作成検討・準備 等	ハザードマップがより多くの住民の目に触れるような取り組みが出来ていない
	■ 水災害教育の充実	出前講座の実施・ シンポジウム の開催	小中学校及び市民向けの講座の開催	マイタイムラインだけでなく、地震を想定した講座、DIG、HUG等、出前講座が多く職員だけでは対応が難しい状況
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■ 地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	天竜川重要水防箇所合同巡視に参加	水防演習（水防訓練）の見直し	水防団員の減少（団員の確保に苦慮）
	■ 被害軽減のための迅速かつ的確な水防活動、排水活動に資する基盤等の整備	浸水センサの設置	効果的な浸水センサ運用方法の検討	効果が最大限発揮できるよう関係機関と連携し、運用方法を研究

●主な取組内容(R5年度)

■SNS集約システムの導入

投稿されたSNS情報を検知し、様々な被害状況等を迅速に集約できるシステムを導入し、災害情報の早期把握に努めた。



SNS情報集約システム

■「防災シンポジウム」の開催

令和5年8月に防災アナウンサー奥村氏を講師に招き、「気候危機時代を生き抜く防災新常識」をテーマとした基調講演と、令和4年台風第15号の経験を地域住民が参加しディスカッションし、共助の重要性を再認識する機会となった。



防災シンポジウム

■浸水センサの設置

道路冠水、内水氾濫の早期把握により、的確な避難情報の発令につなげるため、国土交通省が行う実証実験に参加し、浸水センサを市内10か所に設置した。



浸水センサ

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

磐田市

- 治水安全度の向上のため、田川沢の堤防天端の嵩上げや、大島排水ポンプ場の整備などを実施しました。
- 浸水常襲区域や被災経験箇所などに浸水センサ(10箇所)、カメラ(2箇所)を設置しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 河川整備	田川沢 河道掘削:約350m3 堤防嵩上:約1,000m(暫定整備) 雨垂川測量調査	田川沢 調査・検討 雨垂川 調査・線形(屈曲部)改修 調整池・遊水地の整備	県河川の早期改修等(流下能力の向上) 県との連携・協力
	■ 排水施設の整備・強化	大島排水ポンプ場 (建築・電気機械設備・流入渠整備)	大島排水ポンプ場(場内整備) 既存ポンプ場設備更新・増設	整備や設備更新・増設等に費やす時間と費用
	■ 水田貯留の推進	広域活動展開(継続)		田んぼダム実施にあたり、協力者(耕作者)の理解と協力、支援の検討が必要
	■ 雨水貯留浸透施設の整備	学校・子ども園等の校庭貯留の整備	継続	民間(個別住宅等)の雨水貯留浸透施設整備を協議会として奨励・支援してほしい。
被害対象を減少させるための対策	■ 水災害リスク情報空白域の解消	想定最大規模降雨の内水浸水想定 区域図作成検討・準備	内水浸水想定区域図・ 内水ハザードマップ作成・公表	
	■ 立地適正化計画における防災指針の記載	記載内容の検討、防災指針の記載	継続	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■ 防災意識向上	出前講座の実施	継続	①講座を受講するのは防災に関心のある役員等であり、一般の方が防災の情報に触れる機会が少ない ②出前講座が多く職員だけでは対応が難しい状況
	■ 防災拠点の整備・強化	土のうステーションの運用 水防演習への参加	継続	①備蓄品の保管場所不足 ②水防演習を実災害に合わせた実働訓練とし、住民への防災意識の普及啓発に繋がる内容とする。
	■ 防災情報の観測・提供	浸水センサ・カメラ(豊岡地区、今之浦地区外)設置	継続	効果が最大限発揮できるよう関係機関と連携し、運用方法を研究

●主な取組内容(R5年度)

■堤防整備による治水安全度の向上

田川沢の堤防天端を嵩上げ(約1,000m、暫定整備)し、流下能力を向上



■内水氾濫対策 大島排水ポンプ場整備 (建築・機械電気設備・流入渠工事)



■浸水センサの設置

浸水常襲区域や被災経験箇所などに浸水センサ(10箇所)、カメラ(2箇所)を設置



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

掛川市

- 地域防災力の向上を目的として、水害の発生原因や情報の収集、避難のタイミング等の**防災リーダー養成講座**を実施しました。
- 自主防災会、建設業組合、水防団、消防本部が協働し、**出水時の防災体制の確認と水防工法技術の習得**を実施しました。
- 流下能力の向上を目的に、普通河川坊主淵川(大淵地内)ほか5河川の**浚渫工事**を実施しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	流域一体型タイムライン策定に向けた読み合わせ訓練の実施 等	対応行動整理表の更新、洪水時の情報伝達体制・方法について関係機関と検討 等	流域一体型タイムラインの読み合わせと実効性の検証
	■要配慮者施設における確実な避難に向けた取組	高齢者福祉施設の避難確保計画の更新 作成率は100%	施設管理者への防災情報等の提供、研修会を適宜実施 等	訓練の報告義務の理解促進
	■水災害教育の充実	出前講座・ 防災リーダー養成講座 の開催	出前講座・防災リーダー養成講座の開催 等	女性の視点から減災と防災力の向上
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	重要水防箇所合同巡視に参加、水防訓練の実施	国主催の重要水防箇所合同巡視に参加、水防訓練の実施 等	実災害を想定した水防訓練の検証
	■河川における機能の確保	河道内堆積土砂の浚渫	河道内における土砂堆積や樹木等の情報を地区から入手し、適宜対応	

●主な取組内容(R5年度)

■防災リーダー養成講座(初級編、上級編)の実施

令和4年6月、9月、10月、11月に地域防災力の向上を目的として、水害の発生原因や情報の収集、避難のタイミング等の講座を実施。



防災リーダー養成講座

■水防訓練の実施

令和4年6月に自主防災会、建設業組合、水防団、消防本部が協働し、出水時の防災体制の確認と水防工法技術の習得を実施。



水防訓練

■河道内堆積土砂の浚渫

普通河川坊主淵川(大淵地内)ほか5河川の浚渫工事を実施。



着工前

完成後

普通河川坊主淵川の浚渫状況

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

掛川市

- 流出抑制機能の強化を目的に、森林環境譲与税を活用した間伐等の森林整備を実施しました。
- 出前講座や防災リーダー研修等で家庭の避難計画の重要性及びデジタル版家庭の避難計画の作成方法を指導し、防災意識向上を図りました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 森林保全・治山施設の整備	森林整備：6.6ha（倉真・黒俣・東山口） 治山事業：流末水路整備（倉真） 測量設計（大淵）	継続	近年の豪雨により治山事業の要望が多い（→中遠農林事務所と連携して対応する）
	■ 水田貯留の推進	与惣川流域の水田を対象に 実証実験を実施（国土交通省）	水田貯留エリア拡大に向け調整	水田貯留の効果と営農活動に支障がないかなどの検証
	■ 雨水貯留浸透施設の整備	公共用地を活用した雨水貯留施設 について検討	継続	
	■ ため池治水利用	基本設計	基本設計・事業計画策定・設計・施工	ため池が多く、事業完了までに長期間を要する
被害対象を減少させるための対策	■ 水災害リスク情報空白域の解消	e-地図かけがわの防災情報マップ 更新	継続	市としてはハザードマップを作成・周知しているが、住民にどこまで理解されてるか疑問が残る
	■ 立地適正化計画における防災指針の記載	記載内容の検討、防災指針の記載	継続	河川が多く、家屋倒壊等氾濫想定区域などの扱い検討する必要がある
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■ 防災意識向上	出前講座の実施	継続	専門的な知識を有する職員の派遣要請による講話の依頼
	■ 防災拠点の整備・強化	土のうステーション運営、水防団の強化（水防倉庫の改修等）	継続	
	■ 防災情報の観測・提供	ホームページ、防災メール、同報無線、防災ラジオ、エリアメール、SNSなどあらゆる手段で情報提供	継続	①住民への情報提供の有効性に疑問がある。住民への情報提供が住民の行動に繋がっていない可能性がある。 ②夜間については、多言語に対応している職員の配置ができていない状況である。

●主な取組内容（R5年度）

■ 森林整備による流出抑制機能の強化

森林環境譲与税を活用した間伐等の森林整備を実施中（倉真、黒俣、東山口地区約6.6haを整備見込み）



黒俣地区

■ 農業用ため池の耐震・豪雨対策

基本設計19池を実施中



西沢池

美人ヶ谷村池

■ ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組

出前講座や防災リーダー研修等で避難計画の重要性などを指導し普及啓発を実施



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

袋井市

- 出水時期を迎えるにあたり、消防団(水防団)員に対し、**水防工法の講習会を実施**しました。
- 4年ぶりに従来の手法による水防演習に参加し、**各種水防工法の実演**を行いました。
- 浸水被害軽減のために、**土のうステーションを設置**しました。

取組項目	今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■要配慮者施設における確実な避難に向けた取組	避難確保計画作成の推進	要配慮者支援施設の管理者を対象とした防災情報等の提供及び理解促進 等
	■避難行動を促す取組	メール配信サービスの登録者向上の取組	住民や転入者が水害リスク情報を容易に取得できるよう、市HPへの掲載方法の改善 等
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	消防(水防)団員の確保に向けた広報活動・PRの実施等	①計画作成、法改正を知らない対象施設への対応 ②メール配信サービス登録者が(27,081/88,389人)人口の30.6% →中高生や高齢者を含め防災訓練を通じて更なる加入促進 水位など、数値に加えて映像(カメラなど)による状況の認知が出来るような対応
	■河川における機能の確保	雨水貯留施設の維持管理 出水期前のパトロール ポンプの点検・更新	河川施設等の適切な維持管理
	■流域の市町と河川管理者が一体となった総合的な治水対策の推進	貯留施設整備 河川改修の推進	河川整備計画等に基づく着実な治水対策の推進
	■被害軽減のための迅速かつ的確な水防活動、排水活動に資する基盤等の整備	土のうステーションの整備(1箇所)	消防(水防)団員の減少 (→継続した消防(水防)団員確保やPRの実施) 消防(水防)団員の確保のための広域的なPR

●主な取組内容(R5年度)

■消防団(水防団)員への水防工法研修会を実施

出水時期を迎えるにあたり、消防団(水防団)員に対し、水防工法の講習会を行い、有事の際に現地ですぐに活動できるよう土のうの作成方法や土のう積工などを学んだ。



水防工法研修会

■消防団(水防団)員の水防演習への参加

令和4年9月の台風15号の被害を受け、水防対応の重要性を再認識していたところ、コロナ過に伴う活動制限の解除もあったことから、従来の手法による水防演習に参加し、各種水防工法の実演を行った。

従来方式による水防演習は令和5年5月28日に4年ぶりに磐周支部の3団合同で行ったが、水防工法研修会で学んだ水防工法が十分に発揮された演習となった。



水防演習

■土のうステーションの整備

浸水常襲地区に土のうステーションを整備した。



土のうステーション

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

袋井市

- 流下能力向上のため、準用河川松橋川・油山川の河川整備や河川排水路の浚渫を実施しました。
- 流出抑制対策として、雨水貯留施設の検討・新設・推進を進めています。(駅南遊水池、校庭・公園貯留、「田んぼダム」、ため池の機能強化など)

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■河川整備	準用河川改修:約350m 河川、排水路浚渫:約1,300m	継続 (河川改修・浚渫)	①遊水池等の草刈、浚渫費の財源確保 →採択できる補助金や起債の検討・要望 採択可能な補助金等の創設検討 ②民間企業の流域治水への協力 (民間企業の敷地に貯留施設の整備を検討) →企業への訪問、スキーム構築 流域治水の周知 (国や県を通じて経済界等への協力依頼等) 協力企業のメリット (協議会や国・県を通じて協力企業のPR等) ③田んぼダムに対する耕作者の理解 →農業委員会や耕作者への説明・協力依頼 ④ため池への貯留機能強化に伴う構造改良 →他事業(耐震・豪雨対策)と併せた施設改良
	■排水施設の整備・強化	柳原雨水ポンプ場 (実施設計・用地補償)	柳原雨水ポンプ場 (工事着手・用地補償等)	
	■水田貯留の推進	田んぼダムの実証実験26ha 水田貯留 13ha (蟹田川・沖之川流域)	「田んぼダム」取組拡大 水田貯留の継続実施	
	■雨水貯留浸透施設の整備	雨水貯留整備の推進 (校庭貯留整備、駅南遊水池計画、 民間貯留の検討、ため池の貯留機能の強化)	雨水貯留施設整備の推進 (公園・校庭貯留、駅南遊水池、 民間貯留施設、ため池の機能強化)	
被害対象を減少させるための対策	■水災害リスク情報空白域の解消	内水浸水想定区域の作成の検討	内水浸水想定区域図の作成 中小河川浸水想定区域図の取りまとめ	
	■立地適正化計画における防災指針の記載	記載内容の検討、防災指針の記載	継続	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■防災意識向上	出前講座の実施	継続	
	■防災拠点の整備・強化	土のうステーションの整備・運営 水防団の強化 (水防倉庫の改修等)	継続	
	■防災情報の観測・提供	広報紙やホームページ、 メール配信サービスでの情報提供	継続	

●主な取組内容(R5年度)

■河川整備による流下能力の向上

【(準)油山川整備状況】

【(準)松橋川整備状況】



■流出抑制対策

雨水貯留施設の推進

【校庭貯留(浅羽中学校)】



【田んぼダム】



■内水氾濫対策 【柳原雨水ポンプ場整備推進】



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

湖西市

- 地域住民の防災意識の高揚及び地域防災力の向上を図ることを目的に、「防災出前講座」を実施しました。
- 出水期前に水防体制の強化を図ることを目的に、「水防訓練」を実施しました。
- 地域住民に確実かつ迅速な情報を提供するため、「情報伝達手段の多元化」を進めています。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	自主防災会等に対し、情報提供をした	防災出前講座を活用した水害危険性の周知促進	地域防災指導員と連携して出前講座を実施している
	■ 避難行動を促す取組	防災意識の高揚、地域防災力の向上を図るため出前講座の実施	防災出前講座等を活用した住民向け防災情報の説明会・訓練の充実	地域防災指導員と連携して出前講座を実施している
	■ 円滑で確実な避難に資する情報発信	HPや防災ほっとメール、LINEなどSNSを活用し災害情報を提供	避難行動を促すためのスマートフォン等を活用したリアルタイム情報の提供 等	
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■ 地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	5月に地域の消防団と共同で水防訓練を実施	消防団員に対しての教育・訓練（水防工法の伝承、安全教育など）の実施 等	なり手不足や、団員の確保に苦慮している
	■ 河川における機能の確保	地元要望等により堆積土砂を確認した箇所を管理者へ報告	河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採等による流下能力の保全	

●主な取組内容(R5年度)

■防災出前講座の実施

防災出前講座を活用し、防災意識の高揚及び地域防災力の向上を図った。一部講座では、地域防災指導員が講師を行っている。



防災出前講座

■水防訓練の実施

令和5年5月に、市の水防対策班と消防団が協働し、出水時の防災体制の確認と水防工法技術の習得を図るため、水防訓練を実施。



土のう積み訓練

チェーンソー訓練

水防訓練

■情報伝達手段の多元化

ウェブサイトや「防災ほっとメール」、湖西市公式LINEアカウントやX(Twitter)、Facebookなどを活用し、災害情報を提供。その他、防災ほっとメール登録者数拡大に向けた広報紙等による周知、啓発を実施。



広報紙等による周知、啓発

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

菊川市

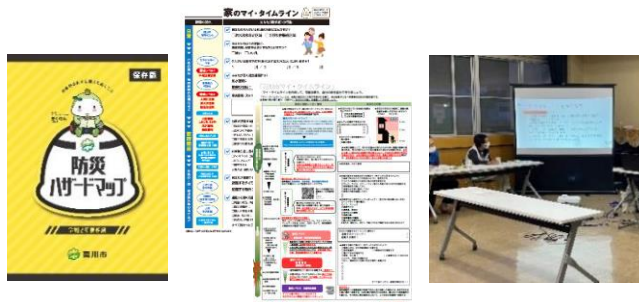
- 住民の自宅等の水害リスクを認識を促すことを目的に、**ハザードマップの周知**を行いました。
- 住民の水害への防災意識の向上を図るため、専門的な知識を持つ「**防災士**」と連携し、**マイ・タイムラインの普及啓発・作成支援**を行いました。
- 市南部地域の浸水対策として、黒沢川流域の**校庭貯留施設**及び**農地への貯留施設**を整備する計画しています。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	タイムライン及び対応行動整理用表活用の実施	対応行動整理表の更新、洪水時の情報伝達体制・多言語化・方法について検討	避難の躊躇をどう解消し、早期の避難を促すか
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	ハザードマップの周知の実施	ハザードマップの周知・県管理河川の浸水想定図作成に伴う見直し、周知方法の検討	ハザードマップの認知度を高めることや外国人の方への周知方法
	■ 避難行動を促す取組	マイ・タイムライン及び防災メールの普及啓発の実施	出前講座等によるマイ・タイムラインの推進、防災メール「茶こちゃんメール」の普及啓発	マイ・タイムライン未作成者や防災メール未登録者への普及啓発の機会の確保
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■ 地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	河川合同巡視への参加及び水防訓練の実施	水防活動の継続的に実施するため水防団員の確保、水防訓練の実施	水防団員のなり手の減少
	■ 流域の市町と河川管理者が一体となった総合的な治水対策の推進	貯留施設等の整備計画の策定	河川整備計画に基づいた治水対策及び要望活動を継続実施	水田貯留施設実施の導入基準 水田貯留施設設置・維持管理

●主な取組内容(R5年度)

■出前講座等によるマイ・タイムラインの普及啓発、作成支援

ハザードマップの周知による、自宅等の水害リスクを認識すると同時に、マイ・タイムラインの普及啓発・作成支援をし、住民の水害への防災意識の向上を図った。また、専門的な知識を持つ「防災士」と連携した普及啓発を実施。



ハザードマップ マイ・タイムライン 住民への出前講座

■令和5年6月水防団との水防訓練を実施

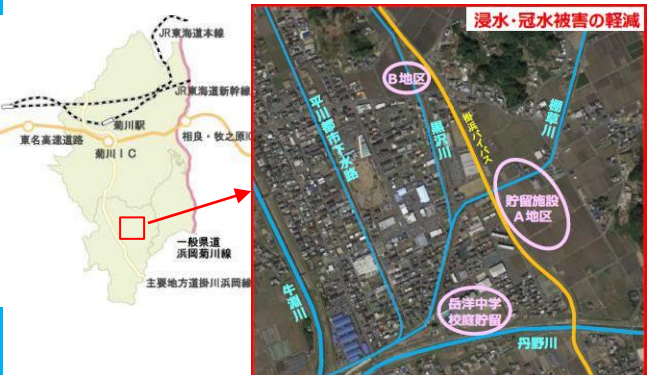
令和5年6月に、水防体制の強化並びに水防工法の技術向上を図るため、水防団と水防訓練を実施。



水防団との水防訓練(令和5年6月)

■貯留施設の整備の検討

市南部地域の浸水対策として、黒沢川流域の校庭貯留施設及び農地への貯留施設を整備する計画を策定。



防災対策強靱化基本計画

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

菊川市

- 市南部地域の浸水対策として、黒沢川流域の校庭貯留施設及び農地への貯留施設を整備する計画を策定しました。
- 道路冠水常襲箇所へ道路冠水センサーを設置しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 河川整備	市管理河川の浚渫を実施	継続	
	■ 水田貯留の推進	水田貯留施設導入の検討	水田貯留の推進	水田貯留実施に向けた農家の理解醸成
	■ 雨水貯留浸透施設の整備	黒沢川流域を対象に検討に着手	特定都市河川等指定の検討 引き続き貯留施設の検討を実施予定	
被害対象を減少させるための対策	■ 頻発・激甚化する自然災害に対応した安全なまちづくりに向けた取り組み	立地適正化計画における防災指針の記載内容の検討	継続	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■ 防災意識向上	出前講座の実施	継続	出前講座の受講団体の固定化 出前講座の未受講団体への受講の働きかけ
	■ 防災拠点の整備・強化	下内田防災ステーションの運営	継続	
	■ 防災情報の観測・提供	道路冠水常襲箇所へ冠水センサーを設置完了	完了	

●主な取組内容(R5年度)

■雨水貯留浸透施設の整備

市南部地域の浸水対策として、黒沢川流域の校庭貯留施設及び農地への貯留施設を整備する計画を策定



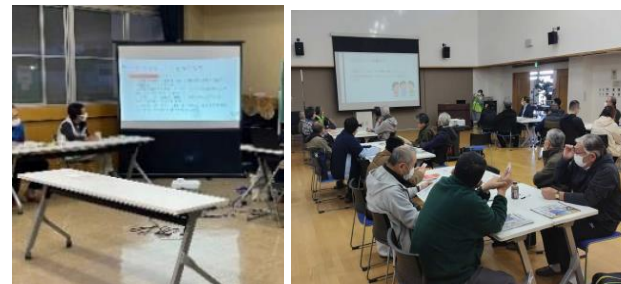
校庭貯留施設



農地への貯留施設

■出前講座の実施

ハザードマップの周知、マイ・タイムラインの普及啓発・作成支援をし、住民の水害への防災意識の向上を図った。また、専門的な知識を持つ防災士と連携した普及啓発を実施。



住民への出前講座

■道路冠水センサーの設置



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

御前崎市

- 災害時に確実かつ迅速な情報を提供するため、**情報伝達に活用する防災アプリを導入**しました。
- 水防意識の啓発と新規作成した洪水ハザードマップの普及のために、**新野川のハザードマップの説明と水防に関する講習会を実施**しました。
- 台風や豪雨時の河川の氾濫に備えるため、御前崎市消防団と土のう作成など**風水害対策活動を実施**しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	情報伝達に活用する 防災アプリを導入	市HPやLINE、防災講座等での説明等を活用し、市民へ防災アプリの周知を図る	
	■ 要配慮者施設における確実な避難に向けた取組	訓練実施等に関する依頼	要配慮者施設で作成している避難計画の見直しや訓練の実施の推進 等	要援護者の負担を考えると避難訓練は垂直避難等にとどまっており、大規模災害を想定した避難訓練の実施が難しい
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	洪水ハザードマップの説明及び水防活動に関する講習会 等	その他河川の洪水ハザードマップの作成や周知促進について協議を進める 等	
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■ 地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	水防団との風水害対策活動、水防団向けの他市の水防訓練の見学会の実施	水防団員に対しての教育・訓練（水防工法の伝承、安全教育など）の実施 等	
	■ 氾濫水を迅速に排水するための取組	排水に関する設備の検討や関係機関との排水計画に関する協議等		今までに、大きな排水作業が必要なほどの水害被害が少なく、計画を立てるほどのノウハウがない

●主な取組内容(R5年度)

■防災アプリの導入

災害時に確実かつ迅速な情報を提供するため、情報伝達に活用するアプリを導入した。

防災アプリでは、災害情報や同報無線放送の内容、避難所の情報など確認することができる。

今後、出前講座等で防災アプリの周知及び普及を図る。



御前崎市防災

防災アプリ

■洪水ハザードマップの説明及び水防活動に関する講習会

地元の住民の水防意識の啓発と新規作成した、洪水ハザードマップの普及のために、洪水の浸水区域内の地域の住民を対象として、新野川のハザードマップの説明と水防に関する講習会を実施。

次年度以降の水防活動の足掛かりと一般住民の意識啓発を図った。



地域住民を対象とした水防に関する講習会

■水防団との風水害対策活動

台風や豪雨時の河川の氾濫に備えるため、市内に土のうステーションを2か所設置。

設置に伴う作業として、水防団である御前崎市消防団と土のう作成など風水害対策活動を実施。



水防訓練

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

森町

- 自主防災体制の強化を目的に、自主防災会、学校関係者等を対象に**防災連絡会を実施**しました。
- 令和4年台風第15号を教訓に、職員としての心構えや災害時の通報対応などを学ぶため、町職員を対象とした**防災研修会を実施**しました。
- 内水氾濫等の事前情報の早期取得を図るため、内水氾濫リスクの高い箇所に**冠水センサーを設置**しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	同報無線や行政無線、HP、「森町ちゃっとメール」、LINE等を活用し、災害情報を提供	SNS等を活用した住民からの情報収集・通報制度のシステム導入	システムを導入した場合のいたずら投稿など
	■自主防災体制の強化	出前講座、防災連絡会等での講話を実施	水害リスクの高い地域等に対する情報提供、防災講座の実施 等	自主防災会との連携の強化
	■水災害教育の充実	防災意識の高揚を図るための出前講座・職員研修会の実施	出前講座、セミナー、講習会の実施 等	知識が豊富な防災関係の専門家による講座など
②洪水氾濫による被害軽減のための水防活動・排水活動等の取組	■地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	水防団による他市の水防演習の参加・水防講習会の実施	水防団員に対しての教育・訓練の実施 等	水防団の技術向上 (→継続して講習会等を実施)
	■被害軽減のための迅速かつ的確な水防活動、排水活動に資する基盤等の整備	冠水センサーの設置	土のうステーションの運営・管理	自主防災会との連携及び運用方法

●主な取組内容(R5年度)

■自主防災会を中心とした防災連絡会を実施

令和5年5月に自主防災会、学校関係者等を対象に防災連絡会を実施。自主防災会としての役割についての確認や、HUG訓練によりゲーム形式で避難所の運営についての習熟を図った



防災連絡会(令和5年5月16日)

■町職員を対象とした防災研修会を実施

全職員を対象に令和5年5・6月の2回、県の危機管理指導参与による防災研修会を実施
前年度の台風15号を教訓に、職員としての心構えや災害時の通報対応など、防災意識の高揚と発災時の対応について学んだ



防災研修会(令和5年6月1日)

■町内への冠水センサーの設置

昨年度の台風15号による被害状況により、町内の内水氾濫リスクの高い3箇所に冠水センサーを設置
内水氾濫等の事前情報の早期取得を図る



冠水センサー

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

森町

- 流下能力向上のため、準用河川大久保川の浚渫及び河床整備を実施しました。
- 防災意識向上のため、自主防災会、消費者クラブ、ケアマネ会議等の団体を対象とし、出前講座を実施しています。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 河川整備	準用河川の整備 (準)大久保川 河床整備:L=60m	継続	近年の豪雨に対応する対策事例の共有
	■ 森林保全・治山施設の整備		森林環境譲与税等を活用した間伐等	
	■ ため池治水利用	基本設計	事業計画策定・設計・施工	
被害対象を減少させるための対策	■ 水災害リスク情報空白域の解消	県による水害リスク空白区域の浸水想定区域図等の公表に合わせて、ハザードマップを更新する		
	■ 立地適正化計画における防災指針の記載	記載内容の検討、防災指針の記載	継続	防災指針を追加するにあたってのアドバイス等
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■ 防災意識向上	出前講座の実施	継続	知識が豊富な防災関係の専門家などによる講座など
	■ 防災拠点の整備・強化	土のうステーションの検討、水防団の強化	土のうステーションの運営・管理、水防団強化の継続	防災減災対策として大雨への備えのための設備や資機材の充実

●主な取組内容(R5年度)

■河川整備による流下能力の向上

準用河川の整備
(準)大久保川 河床整備 L=60m



着手前




着手後

■出前講座の実施



遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

設楽町

- 流下能力向上のため、普通河川古町川の浚渫を実施しました。
- 水源涵養機能や土砂流出・崩壊防止機能の向上のため、森林整備を実施しました。
- 森林への関心を育み、防災意識の向上や林業のPRのため、小学生を対象に林業体験学習を実施しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■河川整備	普通河川の整備 古町川 浚渫:L=150m	継続	
	■森林保全・治山施設の整備	間伐等による町内の森林整備 間伐:54.36ha、下狩り:2.10ha 作業道整備:5,674m	継続	循環型林業への転換
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■避難計画の作成支援	防災ガイドブック(土砂災害版)の公開、防災アプリの活用	継続	山間地であり氾濫に対する認識が低いため、国や県による説明会等を企画して欲しい
	■防災意識向上	森林体験学習 1回	継続	協議会や民間企業と連携し、多くの人が森林の持つ役割を勉強する機会を増やして欲しい
	■防災情報の観測・提供	防災アプリ、HP、防災行政無線などで情報提供	継続	

●主な取組内容(R5年度)

■河川浚渫による流下能力の向上

古町川の浚渫L=150m 排土 約700㎡実施



完了

■森林保全・治山施設の整備

間伐 54.36ha 下狩り 2.10ha 作業道整備 5,674m実施



間伐完了

■森林体験学習の実施

小学生を対象に林業体験学習を行い、森林の多面的機能（保水機能）について説明している。



林業体験学習
(令和5年11月1日 参加28名)

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

東栄町

- 町内で発生した浸水箇所をHPなどで公開しました。
- 地域住民の避難計画の作成支援、防災意識の向上を目的に、防災士との街歩きや避難訓練を実施しました。

取組項目	今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 河川整備 維持管理の実施 (崩れた護岸の補修、草刈り)	継続	補助事業で取り組む場合は河川計画が必要 (未作成)
被害対象を減少させるための対策	■ 水災害リスク情報空白域の解消 町内で浸水が発生した場合、浸水の危険箇所として公開	継続	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■ 避難計画の作成支援 WEB版ハザードマップの公開 各世帯にハザードマップの配布 防災士との街歩きを実施	継続	土砂災害危険区域は浸透しつつあるが、治水については住民の認識不足
	■ 防災意識向上 避難訓練の実施	継続	
	■ 防災情報の観測・提供 HP、東栄チャンネル(TVチャンネル)、Sアラートなどで情報提供	継続	

● 主な取組内容(R5年度)

■ 防災情報の提供



東栄チャンネル



ハザードマップ

■ 治水に関連した教育



まち歩き
(令和4年の様子)
※令和5年は未実施

木育事業(R5.8.20実施)

■ 避難訓練の実施

(R5.9.3 開催)



業務継続(BCP)
と受援体制



愛知県砂防課による
土砂災害講習

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

豊根村

- 令和5年台風第2号により被災した河川の復旧工事を実施しました。
- 住民の防災意識の向上のため、村内全域を対象に避難訓練を実施しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 河川整備	豪雨被災による復旧事業 牧野川 護岸改修:L=7m 宝地川 護岸改修:L=10m	継続	財源の確保に対する取り組み
	■ 森林保全・治山施設の整備	間伐等による村内の森林整備 間伐:70ha 下刈り12.33ha	継続	水源涵養に対する財源の確保と事業理解の促進に向けた取り組み
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■ 避難計画の作成支援	土砂災害ハザードマップの公表 避難場所や災害時道路通行規制 (速報)情報をHPIにて公開	継続	
	■ 防災意識向上	避難訓練の実施	継続	

●主な取組内容(R5年度)

■豪雨被災による河川復旧事業の実施

台風2号に伴う大雨により、村内各地の河川が増水し被災。被災した護岸の復旧工事を実施した。



■森林保全・治山施設の整備

水源涵養機能を向上させるため間伐事業等を実施した。



■避難訓練の実施

土砂災害等を想定した総合防災訓練(避難訓練)を、行政、各種団体、住民組織等が総合的に連携して実施。



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

静岡県
危機管理部、健康福祉部、西部地域局

- 「わたしの避難計画」の普及を図るため、作り方動画の公開やポスターの掲示、啓発活動等を実施しました。
- 要配慮者のための避難支援制度である「個別避難計画」の作成を促進するため、広報ツールの作成や意見交換会を実施しました。
- 今後の風水害に備えるために静岡地方気象台の協力を得て「気象防災ワークショップ」を開催しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	ハザードマップの作成・周知に関する助言	ハザードマップの作成・周知に関する助言	
	■ 自主防災体制の強化	自主防と情報共有を図るための「見える化機能」の運用開始	自主防災組織へ被害状況集約システムや情報提供により活動支援	
	■ 水災害教育の充実	「ふじのくに防災士」の養成	「ふじのくに防災士」の養成	
	■ 避難行動を促す取組	「わたしの避難計画」サイト作成・研修会、「マイ・タイムライン」助言	「わたしの避難計画」、「マイ・タイムライン」の普及	
	■ 円滑で確実な避難に資する情報発信	投稿機能の運用開始、情報発信	防災アプリ「静岡県防災」による情報発信	
	■ 要配慮者施設における確実な避難に向けた取組	個別避難計画の作成促進、福祉施設等職員向け防災研修会の実施	施設職員向け研修や市町職員との意見交換会を実施	

●主な取組内容(R5年度)

■「わたしの避難計画」の普及

- ・ 「わたしの避難計画」の普及を図るため、作り方動画の公開やポスターの掲示、啓発活動等を実施。
- ・ 「わたしの避難計画」を自力で作成できない方をサポートする「わたひな普及員」を養成する講座を実施し、更なる普及を促進。



啓発ポスター(ちらし)



地震防災強化月間での啓発
(令和5年11月29日)

■「個別避難計画」の作成促進

- ・ 避難行動要支援者の避難支援制度である「個別避難計画」を正しく理解いただき、作成を促進するため、広報ツール(個別避難計画作成の手引き)を作成。
- ・ 市町担当者や福祉専門職を交えた意見交換会を実施し、課題の共有や好事例の横展開を行った。



個別避難計画作成の手引き (令和5年6月～7月 計5回実施)



市町や福祉専門職との意見交換会

■気象防災WSの実施

- ・ 令和4年台風15号による風水害への対応において、様々な課題が見られたことから、今後の風水害に備えるために静岡地方気象台の協力を得て「気象防災ワークショップ」を開催し、風水害の際の体制強化のタイミングや避難の判断について勉強した。



気象防災WS(令和5年6月23日)

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

静岡県 河川砂防局

- 令和4年台風第15号と令和5年台風第2号の教訓を踏まえ、本県の水災害対策の課題や今後取り組んでいく対策をまとめたレポート「新たなステージに入った水災害に対する取組」を作成し公表した。
- 県・市町水防業務関係職員を対象に『水防法等勉強会』を開催した。
- 県内報道各社の気象キャスターやアナウンサーと『水防法を踏まえた意見交換会』を開催した。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 確実な避難指示の発令に向けた取組	洪水対応演習等を実施	ホットラインや洪水対応演習等の情報伝達訓練の充実	
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	水防法河川以外の洪水浸水想定区域図の公表	公表した区域図を基に、水防法に基づき洪水浸水想定区域を指定	
	■ 被害軽減のための迅速かつ確実な水防活動に資する基盤等の整備	水防法等勉強会を実施	タイムラインの導入の推進及び訓練による検証、職員の誰もが水害対応できるチェックリストの作成	
	■ 円滑で確実な避難に資する情報発信	気象キャスター等と意見交換会実施	情報発信に関する意見交換会を継続、河川ライブカメラ等での情報の提供	
	■ 水災害教育の充実、避難行動を促す取組	県庁見学会等を実施	リアルタイム情報の提供、県庁見学会等を活用した住民向けの防災教育を実施	

●主な取組内容(R5年度)

■レポート『新たなステージに入った水災害に対する取組』を作成・公表(令和6年2月)

・レポートの中で、令和4年台風第15号や令和5年台風第2号による水災害への対応を教訓とした「**重点対策(29項目)**」を設定し、これらを**重点的かつ緊急的に実施**していく。

●対策11

水防計画書の見直し

●対策15

県土木防災総合情報「サイポスレーダー」の改良

●対策16

災害等の情報収集の仕組みづくり

●対策22

水災害リスクや「流域治水」に関するわかりやすい情報発信

■水防法等勉強会を実施

- ・新たなステージに入った豪雨に対し、市町と共に、**最適な水防業務**を目指して、連携していく。
- ・市町の水防業務の実態を把握し、**効果的、効率的な水防業務の支援**につなげるため、アンケート調査を実施した。
- ・継続実施し、県・市町の、**水防業務のレベルアップ**を目指していく。

令和5年12月22日
参加者：県・市町水防担当等
(約80名)
テーマ：「水防法」に照らし合わせた水防業務
県庁 危機管理センター
(対面、Web併用)



■水防法を踏まえた意見交換会を実施

- ・**有用な情報を地域住民に発信**できるのかを検討するため、県内報道各社の気象キャスター、アナウンサーと意見交換会を実施した。
- ・継続実施し、**住民の防災行動につながる(住民にささる)情報発信**について検討していく。

令和5年12月22日
参加者：18名
県庁
土木防災情報センター



遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

西部農林事務所

- 森林が持つ治水機能・災害防止機能の向上を目的に、間伐などの森林整備や治山事業による土砂流出抑制対策などを実施しました。
- 排水機場の質的強化を目的に、遠隔監視・制御の運用を開始し、リアルタイムの情報把握・迅速な対応を実施しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・ 減らすための対策	■排水施設の整備・強化	排水機場の質的強化の工事・検討	継続	
	■森林保全	「森の力再生事業」等による 森林整備の実施	継続	
	■治山施設の整備	治山施設の新設・維持管理	継続	

●主な取組内容(R5年度)

■森林保全



間伐事業による
森林の公益
的機能(水土
保全)向上

■治山施設の整備



治山施設による
公益的機能(水
土保全)向上



■排水機場の整備・強化



排水機場の遠隔監視・
制御システム
(親局での監視・制
御状況)



遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

中遠農林事務所

- 農業水利施設の防災機能の強化のため、ため池の耐震対策、排水機場の遠隔化等の事業を実施しました。
- 治水安全度の向上を目的に、河道掘削や樹木伐開、森林整備・治山事業による流出抑制対策などを実施しました。
- 関係機関の取組状況や課題などの情報共有を目的に、田んぼダム情報連絡会を実施しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■農業水利施設の整備（排水機場、調整池整備等）	排水機場及び防災重点ため池の整備事業の計画策定及び着手	継続	ため池耐震対策に関連する高率補助事業制度に期限があるため、早期整備が求められる。
	■森林保全・治山施設の整備	森の力再生事業の実施	継続	森林所有者と整備者からの申請事業であるが、申請のあった分については、実施できている。 （→整備地拡大に向け協議会を通じて事業のPRを図る）
	■水田貯留の推進	田んぼダム導入マニュアルの公表 田んぼダム情報連絡会の開催	継続	市町が取組を始める際の情報量の少なさ （→情報連絡会の定期的な開催により、各自自治体と情報共有を図る）

●主な取組内容(R5年度)

■農業水利施設の整備

ため池の耐震対策や排水機場の遠隔化等の事業により、農業水利施設の防災機能の強化を図る。



ため池の耐震対策着手



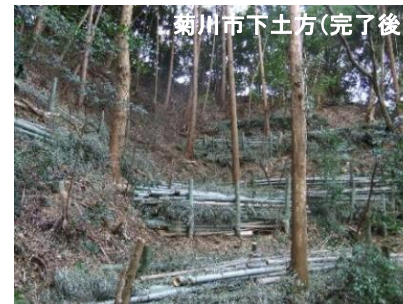
排水機場の遠隔化の事業計画策定

■森林整備・治山事業による流出抑制対策

間伐事業により森林の持つ公益的機能（水土保持）の向上。



菊川市下土方(着手前)



菊川市下土方(完了後)

■田んぼダム情報連絡会の開催

国及び県からの情報提供や、他県や市町の取組状況や課題を共有し、意見交換を実施。



2023/10/24 14:37

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

浜松土木事務所

- 出水期前に、管内市等の関係機関との連携を確認することを目的に、中小河川破堤対応のシナリオ読み上げ訓練を実施しました。
- 水害リスクの空白域の解消に向け、洪水予報河川や水位周知河川以外の河川の洪水浸水想定区域図の作成しました。
- 民間企業の依頼を受け、避難計画策定に必要となる河川の出水特性や想定される浸水リスク等を情報提供しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 確実な避難指示の発令に向けた取組	洪水対応演習等を実施	ホットラインや洪水対応演習等の情報伝達訓練の充実	
	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	令和4年台風15号等を踏まえた検証を実施	タイムラインの導入の推進及び訓練による検証、職員の水害対応できるチェックリストの作成	
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	水防法河川以外の洪水浸水想定区域図の作成・公表	危機管理型水位計・河川監視用カメラ配置計画の整備及び見直しの実施、水害危険性の周知促進	
	■ 水災害教育の充実	学校と連携した洪水の特徴を踏まえた水害(防災)教育の取組 等	学校などと連携した洪水の特徴を踏まえた水害(防災)教育の拡充・支援体制の構築	・継続性のある講座体制(人員・資料等)の確立
	■ 避難行動を促す取組	出前講座を実施	雨量や水位に係るリアルタイム情報の提供、出前講座等を活用した住民向けの防災情報の説明会等	・継続性のある講座体制(人員・資料等)の確立 ・出前講座に参加しない県民への周知

●主な取組内容(R5年度)

■管理河川の破堤を想定したシナリオ読み上げ訓練を実施

土木技術幹部職員からなる水防班長と、主に事務系幹部職員からなる水防副班長を対象に訓練を実施した。

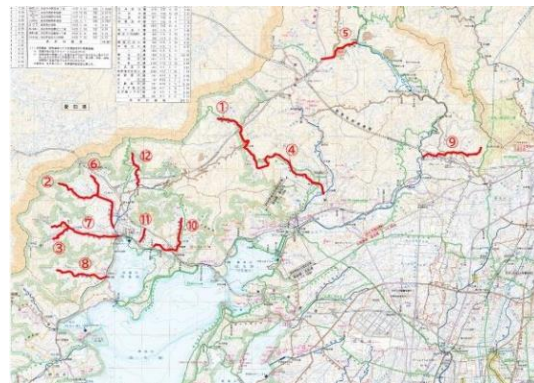


水防班長訓練(R5.5.22)

水防副班長訓練(R5.5.26)

■水防法河川以外の洪水浸水想定区域図の作成・公表

水害リスクの空白域の解消に向け、洪水予報河川や水位周知河川以外の河川の洪水浸水想定区域図の作成を進めた。堀留川ほか13河川の洪水浸水想定区域図を公表する。



■民間企業の避難計画の作成支援

安間川流域の民間企業の依頼を受け、避難計画策定に必要となる河川の出水特性や想定される浸水リスク等を情報提供した。



安間川流域の民間企業との打合せ(R5.10.10)

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

浜松土木事務所

- 流下能力の向上を目的に、河道掘削、樹木伐採及び河川改修などを実施しました。
- 水災害リスク空白域の解消にむけ、洪水浸水想定区域図の作成・公表を行いました。
- 今後、湖西市においても流域治水の取組を推進するため、入出太田川の河道掘削を新たに実施していく。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 河川改修による治水安全度向上	安間川、馬込川、堀留川 河川改修 堀留川、馬込川 水門整備	継続	
	■ 河道掘削、樹木伐採等による流下能力向上	安間川、馬込川ほか河道掘削等	馬込川で継続して実施するほか 新たに入出太田川（湖西市）を実施	河道掘削後の残土の受け入れ先が不足している
	■ 治水協定に基づくダムの洪水調節機能の強化（事前放流等）	都田川ダムの事前放流の運用	継続	
	■ 砂防施設等の整備	砂防施設等の整備	継続	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■ 水災害リスク情報空白域の解消	洪水浸水想定区域図の作成・公表 土砂災害警戒区域標識の設置	継続	
	■ サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県土木総合防災情報ホームページ 「サイボスレーダー」を活用した、雨量・水位に係るリアルタイム情報の提供	継続	

●主な取組内容（R5年度）

■ 都田川水系堀留川の水門・河道整備



■ 馬込川水系馬込川の水門整備



■ 河道掘削、伐木などによる流下能力の向上



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

袋井土木事務所

- 有事に備え、**水防資材をストックするヤードを整備**し、応急復旧に早急に活用できる備蓄を進めています。
- 水防団員等の意見を参考に、住民の避難に資する情報として活用できる**監視カメラ**を新たに4基設置しました。
- 令和5年台風2号の水防活動や堤防決壊後の対応について、振り返りを行い、対応状況等の検証を行った。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 確実な避難指示の発令に向けた取組	洪水対応演習等を実施	洪水対応演習等の情報伝達訓練の充実	他県も含め様々な訓練事例の共有
	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	台風2号等の行動を踏まえた勉強会の実施	タイムラインの導入の推進及び訓練による検証、職員の誰もが水害対応できる事前行動計画作成等	太田川・原野谷川タイムラインの実践での検証及び改善
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	水防法河川以外の洪水浸水想定区域図の作成 等	河川監視用カメラ配置計画の整備及び水害危険性の周知促進	住民への周知、住民の防災に対する意識向上
	■ 避難行動を促す取組	監視カメラの設置	雨量や水位に係るリアルタイム情報の提供、出前講座等を活用した住民向けの防災情報の説明会等	住民への周知、住民の防災に対する意識向上
②洪水氾濫による被害軽減のための取組	■ 被害軽減のための迅速かつ的確な水防活動に資する基盤等の整備	水防資材ストックヤードの整備	水防資材の充実及び水防活動拠点としての活用	近隣機関における備蓄資材の共有及び連携

●主な取組内容(R5年度)

■水防資材ストックヤードの整備

令和4年台風15号及び令和5年台風2号の際に明らかになった課題に対し、有事に備え、水防資機材をストックするヤードを整備し、応急復旧に早急に活用できる備蓄を進める。



ストックヤード整備予定地(磐田市明ヶ島)

■水防活動勉強会の実施

令和5年台風2号の水防活動を振り返り、反省点や改善点を共有した。

また、敷地川の堤防決壊から本復旧に至るまでの対応状況を検証し、対応について勉強会を実施した。



R6.2.9 袋井土木事務所

■監視カメラの設置

令和4年度の台風第15号等を踏まえ、袋井市や磐田市の住民や水防団員などとのワークショップ等を実施し、住民の避難に資する情報として活用できる監視カメラを新たに4基設置した。



上野部川(磐田市上野部)

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

袋井土木事務所

- 流下能力の向上を目的に、河道掘削、樹木伐採及び河川改修などを実施しました。
- 水災害リスク空白域の解消にむけ、洪水浸水想定区域図の作成・公表を行いました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■河川改修（護岸整備）による治水安全度向上	二級河川の河川改修	継続	河道掘削後の残土の受け入れ先が不足している
	■河道掘削、伐木等による流下能力向上	二級河川の河道掘削、伐木	継続	予算の確保(国土強靱化対策の継続実施)
	■砂防施設等の整備雄	砂防堰堤の整備	継続	予算の確保(国土強靱化対策の継続実施)
	■逆流防止施設の整備	フラップゲートの予備検討（佐東川 N=5基）	継続	予算の確保(国土強靱化対策の継続実施)
被害対象を減少させるための対策	■水災害リスク情報空白域の解消	洪水浸水想定区域図の作成・公表 土砂災害警戒区域標識の設置	継続	住民への周知、住民の防災に対する意識向上
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県土木総合防災情報ホームページ「サイボスレーダー」を活用した、雨量・水位に係るリアルタイム情報の提供	継続	住民への周知、住民の防災に対する意識向上

●主な取組内容(R5年度)

■河川改修による治水安全度の向上



■河道掘削・伐採工による流下能力向上

太田川・敷地川ほかの河道掘削を実施し、流下能力向上を図った。



■砂防施設等の整備

土砂や河川水が相まって氾濫する土砂・洪水氾濫等による被害が頻発していることを踏まえ、土砂や流木を効果的に捕捉できる砂防施設の整備を推進。



遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

愛知県

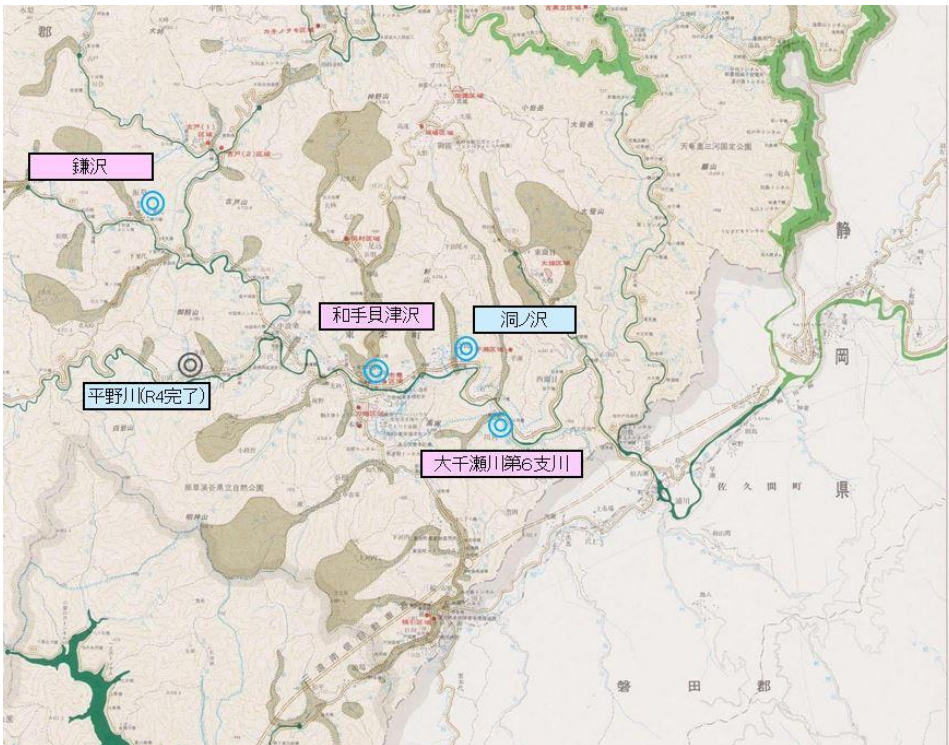
- 継続していた平野川砂防堰堤工事が完了し、新たに4箇所の新砂防堰堤を計画中です。
- 山脚の固定及び土砂の流出の抑止・調節を目的に、治山施設の整備を実施しました。

取組項目	今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ■ 森林保全・治山施設の整備	砂防関係事業の実施 4箇所 治山ダム工 12個	継続	請負事業体の減少、労働力の減少
被害対象を減少させるための対策 ■ 水災害リスク情報空白域の解消	浸水予想図の作成・公表 土砂災害警戒区域標識等の設置	継続	

● 主な取組内容(R5年度)

■ 砂防関係事業の実施

継続していた平野川砂防堰堤工事が完了し、新たに4箇所の砂防堰堤を計画中



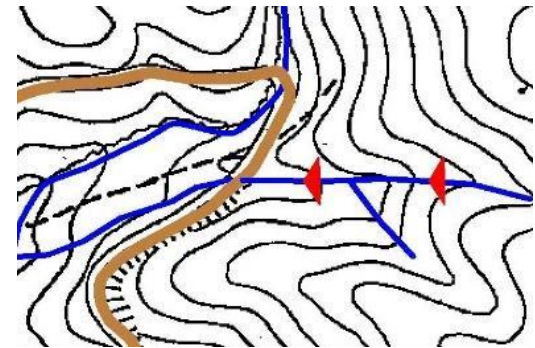
■ 治山施設の整備

流域保全総合治山事業

愛知県北設楽郡豊根村上黒川 地内

谷止工(コンクリート) 12基

施工効果面積 17.9ha



遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

林野庁 天竜森林管理署

- 森林の持つ公益的機能(水土保全)の向上を目的に、継続的な森林管理を実施しています。

取組項目	今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ■ 森林保全・治山施設の整備	治山工事 2件 森林の整備 20ha 林道 558m	継続	事業費の確保 請負事業体(労働者)の減少 請負事業体の育成(講習会等の実施)

● 主な取組内容(R5年度)

■ 森林保全・治山施設の整備

- ・ 治山施設の整備
 溪間工 2.5 基 山腹工 0.2 ha



- ・ 森林の整備
 植付 6.41 ha 間伐 13.41 ha



- ・ 森林の整備
 ○ 保安林の指定施業要件の変更(早生樹の追加)

林業においてスギ・ヒノキに比べ成長が早いテーダマツへの関心が高まっている。

保安林においても活用できるよう植栽指定樹種に追加することで地域林産業のニーズへの対応を可能にし、保安林を伐採した後の早期機能発揮に期待できる。



- ・ 請負事業体の育成
 ○ 講習会の開催(リスクアセスメント等)

林業特有の複雑な作業現場において現地に即したリスクアセスメントを実施できるよう、林業事業体等を集め講習会(現地踏査・グループワーク等)を実施した。

そのほか早生樹現地検討会や森林環境教育等を進めてきた。



遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

森林整備センター

- 奥地水源地域の保安林において、森林整備センターと土地所有者及び造林者との間で分収造林契約を締結し、水源林造成事業を進めています。
- 無立木地や荒廃した森林で事業を実施することで、樹木の根茎の発達や下層植生の繁茂を促し、森林の持つ水土保持機能の向上に努めています。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■ 森林保全・治山施設の整備	下刈 13ha 枝払 16ha 除伐 57ha 間伐 55ha 育成複層林 14ha	継続	ダム湖上流部等において洪水時に河川の水位が上がり、森林が川岸から上部に向かって崩落している事例が見られるので、適切な水位調整と、崩落兆候箇所の護岸工事の実施を望む。

注：今年度の取組実績は、天竜川水系と太田川水系の流域内で実施した水源林造成事業の合計面積である。

● 主な取組内容(R5年度)

■ 間伐の実施による林内環境の改善

間伐を実施し、林内に入る光環境を改善することにより下層植生の繁茂を促し、土砂の流出を防止。



(間伐前)



(間伐後)

■ 育成複層林(更新伐)の造成

人工林の伐採適期を迎えた契約地において契約期間を延長し、小面積分散伐区で伐採及び植付を実施。



(造林者による伐採)



(更新伐のイメージ写真)

■ 講演会の実施

静岡県内の造林者(主に森林組合の担当職員)、地方自治体の林務担当及び森林整備センター職員を対象に、森林総合研究所の防災担当ディレクターによる「森林の防災機能に基づいた森林管理の考え方」について、講演会を実施。



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

電源開発（株）

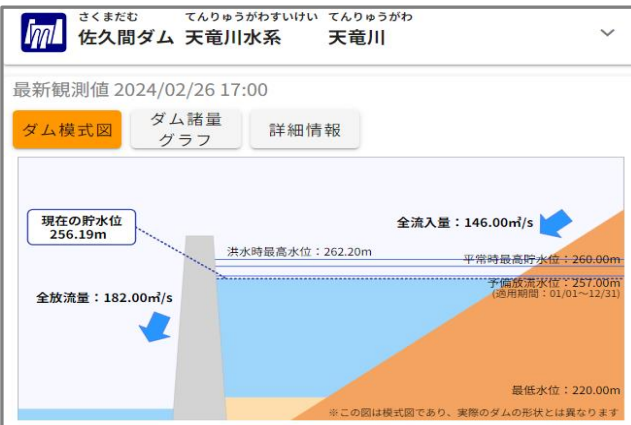
- 住民の避難行動につながるダム放流情報などを「川の防災情報（<https://www.river.go.jp/index>）」で公開しています。
- 継続的な地域の水防活動として、防水門扉操作・排水設備操作の実働訓練を実施しています。（令和5年5月18日に秋葉ダム下流西川地区にて実施）
- ダムの機能や効果、操作に関する説明会を実施しています。（令和5年8月3日に地域住民の方を対象にWEB開催）

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	【住民の避難行動につながるダム放流情報等の提供】 ダム放流情報を「川の防災情報」にて公開、ダム機能・操作に関する情報の住民説明（1回/2年）	【住民の避難行動につながるダム放流情報等の提供】 ダム放流情報を「川の防災情報」にて公開、ダム機能・操作に関する情報の住民説明（1回/2年）	
	■ 地域での水防活動の継続的な実施に向けた取組	【関係機関が連携した実働防災訓練の実施】 西川地区防災訓練の開催（毎年）	【関係機関が連携した実働防災訓練の実施】 西川地区防災訓練の開催（毎年）	
	■ 河川管理施設の整備等に関する事項	【ダムの柔軟な運用への協力】 天竜川水系（下流）洪水機能調節協議会への参加・事前放流実施要領に基づくダム運用	【ダムの柔軟な運用への協力】 天竜川水系（下流）洪水機能調節協議会への参加・事前放流実施要領に基づくダム運用	水窪ダムでは、事前放流の実施判断の基となる予測雨量を、1つの予測地点を対象に算定しているため、局所的な予測の影響を受け、予測と実績とに差異がある。

●主な取組内容(R5年度)

■住民の避難行動につながるダム放流情報等の提供

天竜川水系（佐久間ダム・水窪ダム・秋葉ダム・船明ダム）のダム放流情報を「川の防災情報」で公開している。



■関係機関が連携した実働水防訓練の実施

秋葉ダム下流の西川地区において、防水門扉操作・排水設備操作の実働訓練を毎年1回実施している。

<令和5年度実績>

実施日：令和5年5月18日

参加者：龍山協働センター、地元住民、
J-POWERグループ社員



西川地区防災訓練

■ダムの柔軟な運用への協力

出水時において事前放流実施要領に基づくダム運用を実施している。

<令和5年度実績>

令和5年6月2日～3日台風2号対応等

■ダムの機能や効果、操作に関する情報の流域住民等への説明

天竜川水系ダム放流説明会（WEB）を実施している（1回/2年）。説明内容はダム設備、ダム放流等についてである。

<令和5年度実績>

実施日：令和5年8月3日

出席者：国土交通省中部地方整備局、浜松市、磐田市、
浜松市消防局、磐田市消防署、
静岡県企業局西部事務所

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

遠州鉄道（株）

- 運行の判断をより効率的に実施できるよう、（従来の人力による気象情報確認と運行可否の判断から、）**気象情報会社よりデータ入手し、そのデータを自社の基準に照らし合わせて、拠点ごとに運行の可否を判定するシステムを導入しました。**

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	重要施設の浸水対策 退避・避難経路の検討・整備 大雨時の運行規制をHPやTwitter、LINEで公開	重要施設の浸水対策 退避・避難経路の検討・整備 大雨時の運行規制をHPやTwitter、LINEで公開	短時間豪雨の場合、早めの判断が求められるため、従来の雨量に加えて、水位の情報なども運行/運休の基準に取り入れる必要がある。 →運行の判断をより効率的に実施できるよう、（従来の人力による気象情報確認と運行可否の判断から、） 気象情報会社よりデータ入手し、そのデータを自社の基準に照らし合わせて、拠点ごとに運行の可否を判定するシステムを導入
	■水災害教育の充実	減災協議会のパンフレットを、駅構内スペースに掲示・配布。（継続）	浸水リスクの周知など、その他の減災に役立つ情報発信について、関係機関と連携し検討を進める。	

●主な取組内容(R5年度)

■重要施設の浸水対策の実施

- ・ 自動車学校前変電所（R4年度浸水）の、浸水対策が完了。（扉を浸水対策済みのものに取替、ケーブルの出入り口に浸水対策を実施）
- ・ また、踏切の制御施設装置（R4.9.2洪水時浸水）のかさ上げを実施。
- ・ そのほかの施設に関しても優先順位を考慮して随時実施予定。
- ・ 重要施設の浸水対策の長期計画の作成を進める。（30年計画）



■効率的な運行判断システムの導入

- ・ 運行の判断をより効率的に実施できるよう、（従来の人力による気象情報確認と運行可否の判断から、）気象情報会社よりデータ入手し、そのデータを自社の基準に照らし合わせて、拠点ごとに運行の可否を判定するシステムを導入した。
- ・ 導入したシステムやR4年度の経験を活かし今年度の洪水時（R5.8.24洪水など）には、スムーズに運行判断を実施することが出来た。
- ・ 今後も、今までの経験などを活かしてブラッシュアップしていく予定である。



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

天竜浜名湖鉄道（株）

- 大雨時の**運行状況や運行計画をHPやTwitterで配信**している。
- 台風の影響などにより、計画運休を実施する際には、**事前に駅に掲示物を掲載**する他、**沿線の役所や学校等に電話連絡**を実施している。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	重要施設の浸水対策 大雨時の運行状況をHPやTwitterで公開 計画運休時に沿線学校と情報共有	重要施設の浸水対策 大雨時の運行状況をHPやTwitterで公開 計画運休時に沿線学校と情報共有	
	■水災害教育の充実	減災協議会のパンフレットやハザードマップ等を活用し、駅構内スペースで掲示・配布。（継続）	浸水リスクの周知など、その他の減災に役立つ情報発信について、関係機関と連携し検討を進める。	駅舎を管理する部署にも依頼をしているところだが、なかなかどんな情報の掲示が良いか、決定していない。 （→駅舎の浸水リスクについては、「重ねるハザードマップ」のQRコードの掲示など進める。また、その他の必要な情報については、社内で検討を進める他、減災協議会の場を活用して、必要な情報を収集する。）

●主な取組内容(R5年度)

■重要施設の浸水対策の実施

- ・ 施設の更新等に合わせて、分岐のポイントなどの防水化や設置箇所のかさ上げ等を実施
- ・ 車両基地の浸水被害が予測される場合の避難等の手順を定める「車両基地浸水被害対策計画」を制定済み、改定等が必要か検討している。
- ・ 線路法面のコンクリート補強や線路脇の排水溝の浚渫や改良を進め、線路面の浸水を防いでいる。

■確実かつ迅速な情報の提供と地域住民との情報共有

- ・ 「重ねるハザードマップ」、「浸水ナビ」のリンク先をHPに掲載。（R4.12）
- ・ 大雨時の運行状況や今後の運行計画等をHPやTwitterで公開。（継続）
- ・ 駅構内では、運行状況や駅舎周辺の浸水状況などの無線アナウンスを実施。（継続）
※無人駅には遠隔放送できる体制を構築済み。
- ・ 令和5年6月の洪水時や台風の影響などにより、計画運休を実施する際には、駅に掲示物を掲載する他、沿線の学校に電話連絡を実施。
- ・ 駅の掲示板にその駅を中心とした浸水リスクを確認できる「重ねるハザードマップ」のQRコードの掲示を進めていく。

駅掲示のQRコード

重ねるハザードマップ

日頃ご利用いただいている駅周辺の
災害リスク情報を確認しましょう。

掛川駅



こちらのQRを読み取って確認！



天竜浜名湖鉄道株式会社

- 迅速な情報発信が行えるように、出水期前に、気象台長と市町の首長との「顔の見える関係」を構築しています。
- 市町の避難情報の発令や地域住民の避難支援を目的に、「顕著な大雨に関する気象情報」を最大30分程度前倒して発表する運用に変更しました。
- 気象情報の利活用や、防災対応の習得を目指すため、防災ワークショップを実施しています。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題（→対応策） 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保 被害の軽減 早期復旧・復興のための対策	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	洪水時の情報伝達体制・方法について関係機関と検討 等	洪水時の情報伝達体制・方法について関係機関と検討 等	
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	「顕著な大雨に関する気象情報」の運用変更 等	気象庁HPの改善 等	
	■ 水災害教育の充実	ワークショップ・出前講座を適宜実施 等	ワークショップ・出前講座を適宜実施 等	

●主な取組内容(R5年度)

■気象台長と市町の首長との「顔の見える関係」を構築

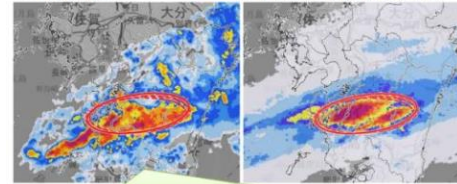


■防災気象情報の適時的確な発表

「顕著な大雨に関する気象情報」を最大30分程度前倒して発表する運用に変更

【気象庁ホームページにおける表示例】

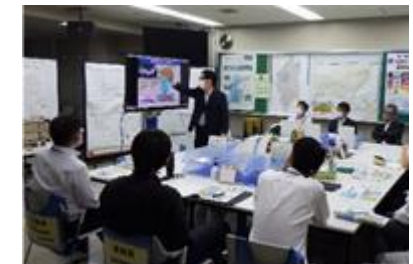
◆「雨雲の動き」 ◆「今後の雨」（3時間降水量）



ある時刻（現在時刻）に解析された線状降水帯の雨域を実線の楕円で、現在時刻から10～30分先に解析された線状降水帯の雨域を破線の楕円で表示。

■防災ワークショップや出前講座の実施

- 自治体の防災担当者は、防災担当が初めてという職員も多いため、気象情報の利活用や、防災対応の習得を目指すため、防災ワークショップを実施している。
- 大雨時の気象情報の使い方などについて、中学校や一般の方を対象に大雨ワークショップ、小学校向けに出前講座を実施している。
- 出水期前に、国河川事務所、県土木事務所の要望などに応じて、情報発信機器の操作方法などの確認を行い、迅速な情報発信を実施できるよう対策を行っている。



静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

浜松河川国道事務所

- 天竜川下流域と菊川流域の関係機関の防災担当者が集結し、**大雨時の対応行動の確認**と**顔の見える関係構築**を行いました。
- 要配慮者施設における**避難行動の支援**を目的に、**スズキ(株)と連携**し、セニアカーを活用した避難訓練(現地実証)を実施しました。
- 流域治水の重要性や防災・減災の**普及啓発**などを目的に、**(株)静岡新聞社と連携**し、新聞媒体を活用した地域住民への情報発信を実施しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
①水害リスク情報の共有による確実な避難の確保	■ 確実な避難指示の発令に向けた取組	洪水対応演習によるホットラインの確認(R5年5月17日)等	洪水対応演習・ホットライン訓練の実施、発令基準の適宜見直し等	関係機関が連携した避難行動計画の推進、顔の見える関係の構築
	■ 避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定	流域一体型TL作成に向けた意見交換会(R5年12月7日)の実施等	流域一体型TLの作成、広域避難計画の作成支援等	
	■ 要配慮者施設における確実な避難に向けた取組	民間企業と連携した避難訓練の実施(R5年11月13日)、避難確保計画作成の周知等	民間企業と連携した避難確保計画・訓練企画の作成支援等	民間企業と連携した取組の推進
	■ 水害リスク情報等の共有に向けた取組	広域避難の検討ワークショップの実施(R5年12月12日)等	危機管理型水位計・河川監視用カメラ配置計画の適宜見直し等	関係機関が連携した避難行動計画の推進、顔の見える関係の構築
	■ 水災害教育の充実	流域治水などへの民間企業の参入・連携に向けた会談記事を静岡新聞に掲載等	引き続き流域住民の防災減災知識の普及啓発活動の実施等	民間企業と連携した取組の推進

●主な取組内容(R5年度)

■流域一体型タイムライン作成に向けた意見交換会等を実施

天竜川下流域と菊川流域の関係機関の防災担当者が集結し、各流域の浸水特性などを関係機関で再確認した上で、**令和5年台風第2号の対応行動を振り返りつつ、実務者にとって使い易く実行性のある流域一体型タイムライン**に係る防災行動等について意見交換を実施した。



流域一体型タイムライン意見交換会(令和5年12月7日)

■要配慮者施設におけるセニアカーを活用した避難訓練を実施

「要配慮者避難確保計画作成・訓練実施」の取組について、計画内容の精査と発災時における実効性向上が課題となっているため、課題解決に向けて、**セニアカーを活用した避難行動の有効性や課題を把握することを目的とした避難訓練**を、スズキ(株)、デイサービスセンター砂丘荘のご協力により実施した。



セニアカーを活用した避難訓練(令和5年11月13日)

■民間企業と連携した流域住民の防災減災知識の普及啓発活動を実施

流域治水の重要性や防災・減災の普及啓発などを目的に、(株)静岡新聞社と連携し、**新聞媒体を活用した地域住民への情報発信を実施**。新聞記事には、静岡県西部・中東遠地域での水防災や流域治水への民間企業の参入・連携などについて、スズキ(株)、(株)静岡新聞社と3者会談した内容を掲載した。



流域治水などへの民間企業の参入・連携に向けた会談(令和6年1月31日)

遠州流域治水協議会 今年度の進捗状況や課題の報告

浜松河川国道事務所

- 流下能力の向上のため、直轄河川(菊川、天竜川)において、河道掘削を実施しました。
- 浜松商工会議所と浜松河川国道事務所の協働で、商工会議所所属企業を対象に、企業BCP(水害版)作成勉強会を実施しました。

取組項目		今年度の取組実績	今後の予定	課題(→対応策) 協議会に期待すること など
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	■河川整備	菊川 河道掘削1.22万m ³ 天竜川 河道掘削1.38万m ³	継続して河道掘削、樹木伐開の実施	河道掘削土砂の搬出先の確保
	■排水施設の整備・強化	擁壁護岸整備を実施	水門・堤防整備	
	■水田貯留の推進	与惣川流域の約11haの水田を対象に実証実験を実施(R4.9)	水田貯留エリア拡大に向け調整	地域主導で進めていくための仕組みづくり
	■ダム再編・事前放流	治水・堆砂対策施設の調査・設計等 置土:1.2万m ³ 、工事用道路:130m 事前放流の実施体制:6回	治水・堆砂対策施設の調査・設計、 置土、工事用道路工事等 継続して事前放流を実施	
	■海岸保全	河道掘削(国事業)の土砂を養浜対策(県事業)へ運搬1.38万m ³	河道掘削(国事業)の土砂を養浜対策(県事業)へ運搬	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	■防災意識向上	出前講座を実施	継続して出前講座を実施	
	■避難計画の作成支援	水害BCPの作成支援勉強会 開催数:3回	継続して作成支援勉強会を実施	地域主導で進めていくための仕組みづくり
	■防災拠点の整備・強化	下内田防災ステーションの運用	継続	

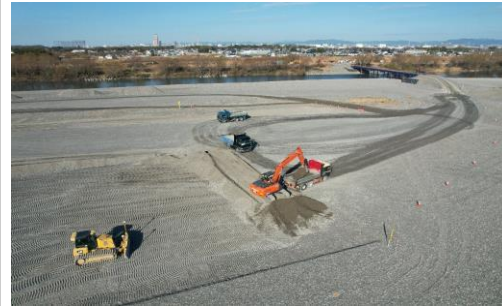
●主な取組内容(R5年度)

■河道掘削、樹木伐開による流下能力の向上

菊川の河道掘削(大石地区)



天竜川の河道掘削(飯田地区)



■企業BCP作成支援勉強会の実施

避難計画や防災意識向上のための取り組みとして、浜松商工会議所と浜松河川国道事務所の協働で、商工会議所所属企業を対象に、企業BCP(水害版)作成勉強会を実施した。勉強会では、基本編として、自社周辺の水害リスクの理解を深める座学に加え、実践編として、BCP作成支援ツールを用いたBCP作成演習およびBCP作成上の疑問点・工夫点などを共有するグループワークを実施した。



企業BCP作成支援勉強会
(令和6年2月1日、28日、3月5日)